

〈資源〉としての文学

山岸 郁子

1 文学館の現状

2008年2月、大阪府知事の橋下徹は大阪府の財政再建構想を発表した。その中で国際児童文学館（以下児童文学館とする）を廃止し、所蔵する約70万点の図書資料を確実に保存・活用し、府民利用の向上と子どもの読書振興を図るためには、児童文学館を大阪府立中央図書館に移転することが適切と判断したことが述べられた。児童文学館の知名度の低さ、立地の不便さ、来館者が少ないことなどを理由に「マーケティングの観点から、場所は中央図書館のほうがいい。圧倒的に子どもたちに見られる所へ移し、本を生かせるようにしたい」と主張したのである。これに対し、館を運営する財団法人大阪国際児童文学館は、一般の図書館とは目的が異なり児童文学に特化した文学館であるからこそ出版社から年間1万点の本の寄贈を受けている点をはじめ、国際的に高い評価を受けているとして、統廃合案に反対を表明した。続いて地元自治体である吹田市も統廃合案に反対を表明する。しかし、2009年2月、府議会は橋下及び教育委員会の方針通り、大阪府立国際児童文学館条例廃止を賛成多数で可決した¹⁾。

同館の廃止統合が決まった後の2009年3月16日、資料を寄贈した鳥越信たち児童文学研究者・文学者29人は、寄贈資料約1,200点の返還を求め、大阪地裁に提訴した。この原告らの訴えは2011年8月26日、棄却された²⁾。

鳥越信は早稲田大教育学部教授として在職中の1983年、自身が収集した12万点にも及ぶ児童文学の資料を寄贈する館を全国に公募した。1911年刊行の日本の創作絵本である中西屋の「日本一ノ画噺」をはじめ貴重資料も多い。公募に対し複数の地方公共団体が名乗りを上げたのだが、「継続的に資料を集めること」「資料を整理し公開すること」を条件として大阪府に寄贈することに決定した。建設予定地である万博公園には既に国立民族博物館があり、世界へ向けての日本の民族・文化の研究拠点となることを強調されたことも寄贈を決めた理由であった。開館時には常勤専門員8名で英仏独の言語圏をカバーしており、さらに専門員を増員する予定であったが、結局2009年には3名まで減らされていた。文学館の資料収集・保存にかかる維持費、人件費を含めた諸経費が、財政を圧迫していた（採算がとれなかった）ためである。

文学館は法によって定義された施設ではない。博物館法と図書館法がそれぞれの施設を定

1) http://www.pref.osaka.jp/gikai_giji/h2102/2102gian.html（平成21年2月定例会議案審議結果 議案番号130）。

2) 『朝日新聞』2011年8月27日。

義しているが、文学館はどちらかに傾斜しているところもあれば、どちらの要素も兼ね備えているものも存在する。つまり「文学」や「文学者」に関する資料を収集し、保管し、調査研究機関となっているものもあれば「文学」や「文学者」に関する資料を展示して一般公衆の利用に供し、講演会やレクリエーション等に資する事業を行う機関もある。また図書館や学校の片隅に地元の作家の展示コーナーがあるところもある。常駐職員のいない記念室、「文学者」の生家や住居など、立て看板一つのところもある。このように「文学」や「文学者」に関わる多様かつ曖昧な資料の受け皿などになっている「文学館」的なものが全国に多く存在しているのである³⁾。

次頁の表からわかるように、図書館を兼ねている施設は、「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」（図書館法第17条）という原則のもとに無料となっている。一方展示・博物館機能を有するものは有料でもよいということになる。児童文学館は文学館設置の折に、図書館法の規定に基づいて設置されたので無料なのである。貴重資料の展示を前面に出し、入館料によって収入を得ることができないのはこのような事情による。よって研究の基幹となる機能よりも、一般市民に開かれた図書館としての役割を重視した判断として廃止統合推進派の考えが正当化されたのである。

児童文学館は2009年12月27日に閉館し、児童書等の資料は中央図書館に移管され、2010年5月に大阪府立中央図書館国際児童文学館として再び公開されることとなった。貴重資料を収蔵している建物と異なり、一般図書館は空調や除湿、防虫、防カビなどの管理が徹底されておらず、資料の移動には問題が多い。また研究閲覧サービスへのきめの細かいフォローも期待することはできないだろう。

もちろん、「大阪維新プログラム案」の中で決定された廃館は、大阪の抱えている政治的な事情もあり、財政的危機によるものだけとはいきれない。しかし、他の文学館も入館者数が伸び悩んでいるところが多く、経営面での実績を常に問われているのが現状である。また指定管理者制度、公益法人制度改革もその財政を圧迫する契機となり、今後淘汰されていく施設も出かねない。児童文学館をめぐる問題は今日の文学館が抱えている様々な問題を内包しているのである。

このような危機意識の下、1995年日本近代文学館（以下近代文学館とする）が中心となり文学館の組織化を目的として全国文学館協議会（以下協議会とする）を発足した⁴⁾。その発起の趣旨には以下のようにある。

ここ4半世紀の間に、わが国には、公立・私立の文学館、文学者の記念館が数多く設立され、図書館内の文庫など付帯施設を含めると、現在その数は580にのぼります。しかし

3) 現在の文学館における問題については岡野裕行「図書館情報学は文学資料の諸問題をどう考えていくか」『勉強通信』（2009年8月）、中村稔『文学館を考える』青土社（2011年2月）などの論考がある。

4) 全国文学館協議会 HP <http://www.bungakukan.or.jp/kyougikai/seturitu.htm>

表 都道府県管理の文学館の運営状況

| 都道府県名 | 施設名称 | 開館年 | 主な休館日 | 開館時間 (展示施設) | 所蔵資料数 (単位:冊・点) | うち 寄贈資料数 | 観覧料金 | | 展示施設入館者数(単位:人) | | | 管理者 (直営以外は指定管理者) |
|-------|--------------------------|------|-----------------------|----------------|-------------------|-------------|------|---------------|----------------|--------------------------------|------------|---------------------------------------|
| | | | | | | | 常設展 | 特別展等 | 2006 年度 | 2007 年度 | 2008 年度 | |
| 北海道 | 北海道立文学館 | 1995 | 月曜日 12/28～翌1/4 | 9:30～17:00 | 約26万点 | 約24万点 | 400円 | 400円～ 600円 | 20,157 | 34,019 | 34,949 | (財)北海道文学館 |
| 青森県 | 青森県近代文学館 (県立図書館に併設) | 1994 | 毎月第4本曜日 12/29～翌1/3 | 9:00～17:00 | 約12万点 | 約10万点 | 無料 | 無料 | 27,819 | 42,742 | 33,246 | 直営 |
| 秋田県 | あきた文学資料館 (秋田県立図書館分館) | 2006 | 月曜日 12/28～翌1/4 | 10:00～16:00 | 約6万点 | 約6万点 | 無料 | 無料 | 6,969 | 7,826 | 7,474 | 直営 |
| 群馬県 | 群馬県立土屋文明 記念文学館 | 1996 | 火曜日 12/29～翌1/3 | 9:30～17:00 | 約16万点 | 約12万点 | 200円 | 概ね400円 | 23,979 | 18,666 | 21,398 | 直営 |
| 埼玉県 | さいたま文学館 | 1997 | 月曜日 12/28～翌1/4 | 10:00～17:30 | 約10万点 | 約5万6千点 | 210円 | 210円 | 8,917 | 8,609 | 11,485 | (財)けやき文化財団 |
| 神奈川県 | 神奈川近代文学館 | 1984 | 月曜日 12/28～翌1/4 | 9:30～17:00 | 約109万点 | 約92万点 | 250円 | 400円～ 700円 | 27,584 | 29,578 | 34,898 | (財)神奈川文学振興会 |
| 石川県 | 石川近代文学館 (石川四高記念文化交流館) | 2008 | 12/29～翌1/3 | 9:00～17:00 | 約4万点 | 約3万点 | 350円 | 350円～ 500円 | 15,091 | 6,164(H19.10.1～ H20.4.25休館) | 13,867 | 直営 |
| 山梨県 | 山梨県立文学館 | 1989 | 月曜日 12/29～翌1/1 | 9:00～17:00 | 約32万点 | 約22万点 | 310円 | 内容により 変更 | 23,200 | 30,525 | 12,324 | 学芸部門は直営 維持管理は指定管理 (SPS・桔梗屋グループ) |
| 大阪府 | 大阪府立国際児童文学館 | 1984 | 水曜日 12/28～翌1/4 | 9:30～17:00 | 約71万点 | 約54万点 | 無料 | 無料 | 55,927 | 51,924 | 64,879 | (財)大阪国際児童文学館 |
| 徳島県 | 徳島県立文学書道館 | 2002 | 月曜日 12/28～翌1/4 | 9:30～17:00 | 約10万点 | 約5万7千点 | 300円 | 300円～ 500円 | 62,654 | 68,420 | 61,524 | (財)徳島県文化振興財団 |
| 高知県 | 高知県立文学館 | 1997 | 12/27～翌1/1 | 9:00～17:00 | 約5万点 | 約3万点 | 350円 | 350円～ 600円 | 11,527 | 15,307 | 23,540 | (財)高知県文化財団 |
| 熊本県 | 熊本近代文学館 (県立図書館に併設) | 1985 | 火曜日 12/28～翌1/3 | 9:30～17:15 | 約2万5千点 | 約1万2千点 | 無料 | 無料 | 25,596 | 27,489 | 26,270 | 直営 |

【備考】

青森近代文学館は館外の事業参加者を含む。

徳島県立文学書道館は展示以外の施設利用者を含む。

ながら、これまで文学館・記念館の交流は一部の館だけに限られ、これだけ数多くなった館の相互間の交流はきわめて乏しい状況でした。

相互の交流が増すことにより、収蔵資料のデータの相互検索・利用が可能になれば、利用者にさらに大きな便宜を提供できます。展覧会・講演会などの催事についても、相互協力により、それぞれの地域において、一層有意義な啓蒙・普及活動が合理的な費用で実施できるはずです。各館がこれまで独自に解決の方法を工夫してきた文学資料を専門に扱ういわば〈文学館学芸員〉といえる人材の養成・確保、館の運営・維持・管理にいたるさまざまな問題についても、知恵と経験をだしあうことで克服することも可能となります。

そこで、文学館運動をさらに発展させ、利用者へ一層の便宜をはかるためには、数多い文学館・記念館相互の話し合いの場をつくり、互いの問題を相談し、できることから少しずつ相互の交流を試みたらどうか、こうした場をもつことが、既存の館の未来にとっても、将来設立される館のためにも、ひいてはわが国の文学の研究、啓蒙、普及のためにも必須であろうとの考えから、全国文学館協議会が設立されるにいたりました。

近代文学館が呼びかけの中心であったため、近代以降の「文学」や「文学者」を顕彰し、かつ研究機関として維持されている文学館がこの協議会に所属した。所属機関は現在99館であるが、所属をしていない館も（むしろ所属をしない館のほうが）多く存在する。その理由をすべて網羅することはできないが、成立事情、目的、規模、性格（総合文学館か、個人文学館か）、財政的な裏づけ、研究機能の有無、専従の研究員や学芸員の有無、サービスも千差万別であり、協議会に所属し、対等に協力関係を結ぶのは困難なところも多いだろうし、また所属をするメリットがないと判断するところもあるだろう。

趣旨にもあるように、当初の目的は人的ネットワークの構築ということもあるが、もう一つの目的は文学館相互館での巡回展や共同企画展の実施であった。しかし、内実は所蔵資料が少ない文学館に対して多い文学館が資料を融通するということである。例えば近代文学館は、1展300万円で所蔵資料をもとに企画・構成した展示パックを貸し出している⁵⁾。「石川啄木」展や神奈川近代文学館と共同企画の「夏目漱石」展のような個人作家展、「愛の手紙」展や「文学・青春」展のようなテーマ展などのパックが用意されている。地方の文学館などが想定できる購入先であるが、どこも事業費が削られており、1展を分割して貸し出したり、200万円の中型パック、100万円の小型パックなどを企画・製作せざるを得ない状況なのである。人件費も真っ先に削減される対象となっているところが多く、協議会が育成しようとしている博物館学芸員でもなければ図書館司書でもない〈文学館学芸員〉も、現在その受け入れ先があるのか疑問である。

5) 伊藤義雄「日本近代文学館の現状と課題」『昭和文学研究』第60集 2010年3月。

2 観光資源としての文学館

2.1

現在も年間15万人前後の入館者を記録する花巻の宮沢賢治記念館は、協議会には所属していない。宮沢賢治記念館は花巻市の施設であるが、記念会という維持組織がそれとは別に館の維持・運営をしている。館の目的は「宮沢賢治の遺品、遺跡、関係資料などを収集し、保全管理するとともに、一般に供覧し、宮沢賢治研究および社会教育の振興に資すること」とし、具体的には次のような事業を行なっている。

- 1 宮沢賢治に関する資料の収集
- 2 宮沢賢治に関する講演会、研究会などの開催
- 3 宮沢賢治に関する遺跡、詩碑の保全管理
- 4 その他目的を達成するために必要な事業

ここで宮沢賢治記念館設立までの過程を押さえておきたい。宮沢賢治は1933年に死去しており、同年11月23日に花巻町役場階上において追悼会が催された。翌年の一周忌を前に生前親交のあった有志、農学校での教え子、羅須地人協会に集った人びとで「賢治の会」を発足、詩碑を建立するための実行委員会を立ち上げ、1936年11月21日に高村光太郎の揮毫による『雨ニモマケズ』の詩碑が建立された。詩碑前にて命日に執り行われていた追悼会は1951年に「賢治祭」となる。1955年には花巻市・市教委・賢治の会の共催となった。翌年の「賢治祭」の開会の辞は花巻市商工課長であった。1958年には開会の辞を述べた八重垣市長により「偉大な人物が輩出すると神に崇める風習があるが私はそう考えていない。賢治と二、三回あったが普通の人と変っていない。地方において環境のからを破って自己の世界を造り人々から崇拜される偉大さに尊敬の念を抱く。この地は観光ではなく文化の発祥としたい」と述べた（下線引用者。以下も同じ）。この間も賢治祭は続けられ、遺族からも館の設立に対し賛同が得られた1978年記念館の建設計画が発表され、募金活動を開始し、没後50年記念事業として1983年に宮沢賢治記念館が竣工されたのである。

館の建設用地を決定する際、川村胡四王山観光協議会長がメンバーに加わる。予定地は私有地であり9人の地権者が所在したが、花巻市の関係課が交渉し、約2ヘクタールの敷地を買収した。市は胡四王山一帯を自然公園化する構想を立て（財）岩手県開発会社に総合調査を依頼し、観光・資源・史跡的に適しているという判断が下された。1976年には財団法人宮沢賢治記念会を創立、公益法人となったのである。

ここに改めて建設募金運動が始まった。「建立願文」は以下のようにある。

すぐれた詩人、童話作家、科学者であり、教育者、宇宙的汎宗教的ヴィジョンをもち、き

びしく身を節し、農民の幸福のために奔走、生命をかけた巨きな愛の人、宮沢賢治。その没後、はや半世紀近くの年月が経ちました。その間遺された多くの原稿類、関係資料の数々、全国的に刊行される研究書など、それら一切を収蔵し、展示閲覧できる記念館設立を望む声は、絶え間なくつづいておりました。郷土花巻、岩手県はもちろん、全国にわたる多くの人びとの要望は、しだいに熱い波となって打ち寄せたのであります。よって花巻市と財団法人宮沢賢治記念会は、まず設置場所を、賢治が「経理ムベキ山」の一つとした花巻市矢沢の胡四王山ときめ、諸般の事務を完了し、土地収納をおわりました。

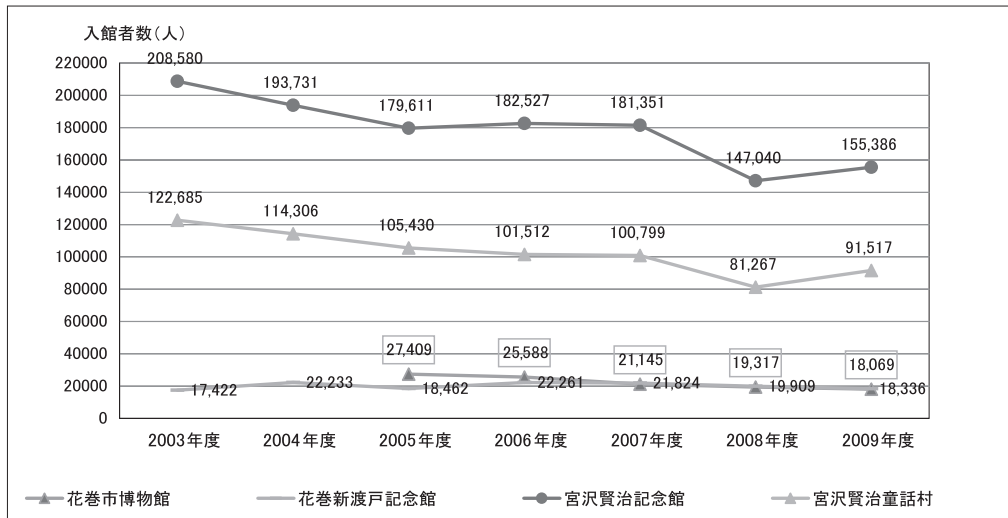
いよいよこれより三〇〇〇平方メートルの整地を行ない、記念館の建設に進むのであります。それには経費約三億五千万円を要する見込みであります。この費用を作ることはなかなかむづかしいことでもありますので、ここに広く有志の方々の御厚情と御協力を仰ぎ、一日も早く機能的な記念館完成を目指したいと願っております。みなさまのご支援を伏してお願ひ申し上げる次第でございます。

花巻市は第三次花巻市総合開発計画の基本方針に「宮沢賢治記念館の建設に伴い市民の芸術、文化に関心の深まることが期待される。これを機になお一層、芸術文化の振興と活動の推進を図る」と明文化した。官は文化拠点のみではなく観光拠点として宮沢賢治記念館に期待を寄せていたことは明らかである。賢治の弟清六は館の建設計画に立ち会い続けていたが、開館にあたって大切に保管してきた原稿、遺品等を無償で市に贈呈している。作家の資料が散逸せずに保管され、遺族の手によって寄贈されるということも館の設立には必要不可欠とあってよいだろう。「今や賢治は個人のものでなく、公共性が強くなっている。当然のことです」と藤田万之助市長は述べ、1982年宮沢賢治記念館条例を制定し、館を市が管理運営することを決定した。結果的に行政と市民と遺族が連携し文学館を完成させたといつてよいであろう⁶⁾。

宮沢賢治記念館は研究者における講演会を開催し、定期的に研究機関誌を刊行するなど研究拠点としての機能を果たしてもいるが、花巻市では宮沢賢治文学館をあくまでも観光施設として分類している。

6) 『修羅はよみがえった-宮沢賢治没後 70 年の展開』宮沢賢治記念会 2007 年 8 月。

図1 主要観光施設の利用状況：花巻



注：花巻市統計書より作成

このように花巻市の統計書において宮沢賢治記念館は観光施設として報告されている。花巻市ではグラフにある花巻市博物館、花巻新渡戸記念館、宮沢賢治童話村と4館共通のチケットがあるのだが、観光人口自体が緩やかに下降している中においても施設の入館者数は宮沢賢治記念館が突出しており、集客力のある重要な観光資源となっていることは確かであろう。さらに花巻市は1989年の「ふるさと創生事業」を利用して1992年に「宮沢賢治学会イーハトーブセンター」という新たな研究拠点も設置している。つまり宮沢賢治記念館は観光施設を前面に出すことによって、安定的な研究拠点であり続けることができるのである。

2.2

長崎市によって同じく観光施設として位置づけられている遠藤周作文学館は2000年5月に外海地区（東出津町）に建てられた。現在は長崎市に編入された旧外海町は隠れキリシタンの里として知られ、遠藤の代表作である『沈黙』（1966年）の舞台となった。実在した黒崎村を小説内における「トモギ村」のモデルとしたことによるもので、文学館に先んじて1987年11月には『沈黙』の文学碑が出津文化村内に建立されている。

遠藤周作が1996年9月に死去した後、遺族や親交のあった関係者により文学館の建設構想が進められ、複数の候補地の中から外海町が選ばれた。生家や住居があった場所ではなく作品の舞台に文学館を建設したのである。角力灘の夕日が美しいこの地は作品世界の叙情を感じさせ「文学や人間を語るのにふさわしいロケーション」として選ばれたとされている。遠藤周作文学館は協議会の会員でもある。

遠藤周作文学館は長崎市文化観光部によって運営され、出島・長崎歴史文化博物館・長崎まちなか龍馬館・長崎市亀山社中記念館・長崎原爆資料館・長崎県美術館・大浦天主堂・長

崎ペンギン水族館・グラバー園から3つを選べる共通チケット（サンキュウパスポート）でも入館することができる。

完全な比較はできないが、地方文学館であるふくやま文学館（ふくやま芸術文化振興財団）、東京の住宅地にある世田谷文学館（公益財団法人せたがや文化財団）、作家生育地にある川端康成文学館（茨木市）、観光地軽井沢にある堀辰雄文学記念館（軽井沢町）の入場者数に比しても遠藤周作文学館の入場者数は決して少なくはない（図2）。ただ2009年度の入場者数がグラバー園約88万2,000人、原爆資料館約66万3,000人という長崎市において文学館の観光への貢献は低いように映る。

図2 5館の入場者数

（単位：人）

| | 2005年度 | 2006年度 | 2007年度 | 2008年度 | 2009年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ふくやま文学館 | 15,245 | 16,572 | 19,979 | 21,529 | 17,272 |
| 川端康成文学館 | 9,936 | 8,017 | 8,216 | 8,901 | 8,300 |
| 堀辰雄文学記念館 | 13,439 | 13,763 | 14,203 | 9,907 | 8,844 |
| 世田谷文学館 | 48,875 | 62,374 | 44,686 | 70,254 | 60,914 |
| 遠藤周作文学館 | 29,554 | 35,841 | 27,563 | 27,036 | 22,798 |

注：各統計資料から作成

しかし、来館者数などの「数字」を上げていくことのみを目的化するのではなく「人間がこんなに哀しいのに、主よ海があまりに碧いのです」（『沈黙』）といった文学表現を得て、隠れキリシタンの歴史をひもとくことこそが重要だという判断を市が行なったことを評価するべきであろう。その土地がもつ歴史的イメージを文学表現が喚起させることの可能性に価値が見出されたのである。観光施設として位置づけられるということが文学館存続の一つの可能性ではあるが、そこにあることの意義が正確に示されていることこそが重要なのである。

2.3

他には昨今の事例として検定ブームに乗じて文学館において郷土教育を進めるという方法がみられている。

11月8日の金沢検定に向け、金沢三大文豪の各記念館を巡り、学習に励む金沢市民が増えている。9月以降、来館者の伸びが目立つ徳田秋聲記念館は、市民の学習意欲に応えようと、金沢検定を想定した4択問題のマークシートを作成した。今年で5回目を迎える金沢検定を通じ、ふるさと教育が広がりを見せている。

秋聲記念館では、9月の来館者数は前年比35%増の888人、今月は25日までに先月を上回る894人が来館している。泉鏡花、室生犀星の両記念館でも9月は前年比で来館者が増えており、「金沢検定でどんな問題が出そうか」「何を勉強したらよいか」など、学芸員に

熱心に尋ねる来館者の姿が目立つようになったという。各館共通の年間パスポートで何回も足を運ぶ受験生もいるという⁷⁾。

所蔵資料の企画展示にも限りがある文学館において、市民還元の一つの方法を示しているといえよう。文学館は一種の教育施設として、郷土の作家を顕彰するとともに、「文学」や「文学者」を介してなるべく多くの人に歴史や文化を伝える役割がある。そのためには文学館のみの力では限界がある。自治体に代表されるような地域とうまく手を組むことによってそれは達成されるのではないだろうか。

3 文学館運動の時代

そもそも文学館・記念館はどのような経緯で設立したのだろうか。協議会の設立理由の中に「文学館運動をさらに発展させ、利用者へ一層の便宜をはかるためには、数多い文学館・記念館相互の話し合いの場をつくり、互いの問題を相談できることから少しずつ相互の交流を試み」るために、という文言がある。ここにある「文学館運動」とは一体何であるのか。

文学館運動を牽引してきたのはやはり近代文学館である。1962年5月2日に準備会がスタートし、1963年4月7日、財団法人として正式に発足、1967年4月13日に開館している。設立に尽力し、財団法人として初代理事長を務めた高見順が開館を迎える前に死去する(1965年8月)。1964年に高見順本人から文学館宛に原稿・草稿・本人宛書簡・蔵書が寄贈され、後に遺族から寄贈・寄託されたものと合わせた「高見順文庫」は49,081点にものぼった。高見順の葬儀は三団体葬(文芸家協会・ペンクラブ・近代文学館)として行われ、1966年には百貨店(伊勢丹)で「作家高見順展」が開かれる。これが結果的に近代文学館の設立基金のための宣伝にもなったようである。この時の編集委員長(実行委員長)は川端康成、副委員長が伊藤整であった。ちなみに1965年は江戸川乱歩、谷崎潤一郎といった戦後も衰えぬ力量を発揮していた作家が亡くなり、その訃報は新聞紙面を大きく占めていた。

そもそも近代文学館誕生のきっかけは1961年に立教大学小田切進研究室が催した「大正昭和主要文芸雑誌展一二〇五誌」に高見や大岡昇平・池島新平・平野謙・阿部知二・秋山清が足を運んだことによるとされている。そこから同時代の作家や評論家、研究者に館の必要性が波及していったのである。設立の趣意書は1963年4月と11月に出されているが、その書き手である川端康成は「文学」の「伝統」こそが「日本の誇り」であると、文学館の意義を強調している⁸⁾。これは日本の伝統を意識した創作態度とも連続していく問題系であると同時に日本の固有性を示す資源として「文学」を保存する重要性について説いたものである。発起人2,123名の連名で東京都をはじめ、関係官庁との交渉、財団法人設立の準備、新聞社・

7) 『富山新聞』2009年10月27日。

8) 『日本近代文学館(日本近代文学館設立の趣意)』1962年4月7日。

出版社その他関係各方面との折衝を進めたのである。

この法人は日本近代文学および現代文学の関係諸資料を蒐集・保存し、一般の利用に供することにより日本文学の振興・研究に資し、もって国民文化の向上と発展に寄与することを目的とする。そのための事業として、

- 一 図書・文献・手稿等の蒐集・保存および展示
- 二 遺品・建造物等の蒐集・保存および展示
- 三 講演会、講座、展覧会、談話会および映画会その他文化集会の開催
- 四 その他目的の達成に必要なとみとめられる事業

を行なうことが、設立の目的であった。

高見順に次いで近代文学館館長になったのは伊藤整であるが、『昭和文学盛衰史』そして『日本文壇史』を記した二人が館の設立と関わっていることは重要であろう。他にも平野謙『昭和文学史』、『わが戦後文学史』、本多秋五『物語戦後文学史』などこの時期は昭和に至るまでの文学史が次々と創作された。川端が言うところの近代文学の「伝統」はこの時期に創られたものである。そしてそこに日本文化というような歴史的な意味が見出され、配置されることによって原資料が散逸するといったことへの恐れが発生したのである。ここから文学館運動というものが生まれたと考えられる。1964年11月1日から2週間にわたり、新宿・伊勢丹にて「文学百年の流れ—近代文学史展」という展覧会が開催され、4万2,000人の入場者数を記録したのである⁹⁾。

この運動は地方へも波及する。北海道では1966年10月に札幌・丸井今井デパートで「北海道文学展」が開催され、のちの北海道文学館設立のきっかけになっていった¹⁰⁾。展示されたものは北海道に関連する作家の写真に始まり直筆の原稿や書簡、作家の愛蔵品などである。

北海道文学展は、「開道100年を契機に、北海道の文学遺産を集め、その精神史を一堂に繰り広げて、明日の北海道文学発展の礎にしよ」とした更科源蔵や小笠原克をはじめとする在道文学者と文学研究者によって企画されたものである。伊藤整と更科源蔵のテープカットに始まり、約3,000点の貴重な資料が20コーナーに分けて展示され、6日間の会期中に2万人の観客が押し寄せるといふ盛況であった。伊藤整、中野重治、大江健三郎による文学講演会は大入りで、演壇の真下まで聴衆が詰めかけたという。

近代文学館の新理事でもあり、北海道ゆかりの作家でもある伊藤整は「今の北海道にはすぐれた作家が定住し、力のある文学史家、文芸評論家たちがそろっていて、東京の評論家た

9) 拙稿「〈いま〉を考えると『昭和文学研究』第60集(2010年3月)において既に論じた。

10) 『北海道文学館 平成8年度年報』「文学館の歩み」1996年。

ちもこのことをもって北海道文学の黄金時代である、というのを私は聞いている」¹¹⁾と述べている。さらに終了後も『有島武郎文学展』、『文学に見る北方風物展』、『近代文学百年展』というように北海道文学館へ結実すべく文学展を次々と開催するのである。

企画する側にいた木原直彦は

苦労は多いが、企画展はじかに作品からとは違った作家の実像に触れるよろこびを知ってもらい、館にとっては資料の確認と寄贈を受ける契機となる貴重な催しです。また、作家や作品のゆかりの地を研修する『文学散歩』、すぐれた講師陣による文芸講座などは、文学を通じて学びあう場になっていると思います（下線引用者）。

と回想している。「バスによる文学散歩」、『文学の旅』、講座・講演会を開催し、『北海道文学大辞典』、『北海道文学全集』全23巻、『北海道児童文学全集』全15巻、『北海道文学地図』、『北海道文学百景』などを次々出版する。文学を通して北海道を再確認するような、熱を帯びた運動であったことがわかるのである¹²⁾。

また金沢でも1963年丸越百貨店で「郷土三文豪展」が開催（北國新聞社主催）され、1968年石川近代文学館が開館する。その際の企画は「郷土作家三人展 鏡花・秋聲・犀星」であった。1969年「鏡花没後三十年特別展」、1970年「徳田秋聲生誕百年記念展覧会」、1971年「犀星没後十年記念展」が開催され、1987年『石川近代文学全集』全19巻の刊行が始まった。その後1999年泉鏡花記念館、2002年室生犀星記念館、2005年徳田秋聲記念館が開館した¹³⁾。3つの個人文学館は現在16の観光施設との共通観覧券がある。文学館運動を契機として発見された「金沢の三大文豪」が今日の観光資源になっているのである。

4 文学館運動を支えたもの

本家ともいえる近代文学館が企画した文学展で最も規模が大きかったものは「川端康成展—その芸術と生涯—」で、衝撃的な死（1972年4月16日）の後に全国の11都市で開催されている（1972年9月27日～1973年4月18日）。後援が民間企業ではなく文化庁ということからも、まさに川端が日本を代表する「文化人」であったことを示しているだろう。

そしてまたこの時期、日本の近代文学が研究対象として認められ、研究者人口が拡大していたことも指摘しておかねばなるまい。1951年に日本近代文学会が設立され、1964年機関

11) 『館報』1号 1967年。

12) 『カムイミントラ』第23号（1987年11月）・『北海道文学館平成8年度年報』『文学館の歩み』（1996年）を参照。

13) 『市史年表金沢の百年 大正昭和編』金沢市（1967年）、『石川近代文学全集別巻 軌跡・石川の近代文学』能登印刷出版部（1998年）を参照。

誌『日本近代文学』を創刊する。1962年には三好行雄が東京大学文学部国文学科に助教授として着任し、既に1890年から文学科をおいていた早稲田大学をはじめとする首都圏の私立大学のみならず地方の国立大学や私立大学にも近代文学専攻の教員ポストが確保された。研究方法も東京大学の系譜としてあった古典主義的研究ではなく、文献学的な文学研究が全国に広がっていったのである。

もちろん前提となっているのはこの時期が「文学」の豊饒期であり、人びとの「文学」に対する信頼が極めて高かったということである。「文学者」は、経済的な躍進を背景に新聞・週刊誌・ラジオ・テレビなどのメディアに露出し、「現代の英雄」¹⁴⁾（荒正人）となっていった。

1950年代は、朝鮮戦争の勃発や冷戦の深刻化などを背景に社会状況が変化する一方、高度経済成長の中で大衆消費社会へ日本が変貌していく時期である。「文学」もまた大衆化時代に入り、古典文学や海外文学を含めて「文学」の再生産の装置としての文学全集ブームが起こっていた。文壇という場も意識的に他の領域や新たなメディアと連携をしながらその市場を拡大していったのである。

そしてこの高度成長期に、地方では地元ゆかりの「文学」や「文学者」が発見され、関係する資料を管理・展示しようとする動きが出てきた。その意図は「文学者」の足跡を歴史的に辿り、「文学」作品をその中に位置づけ、顕彰するといったものであった。文学館の展示における「資料」の選択とその配列には、「文学者」の身体性とその土地の風土性が反映されていた。風土が作家の内面を作り出したのだという類型的ともいえる物語がそこには存在したのである。作家研究が研究方法の中心であったことも関係しているであろう。

戦後日本では、全国総合開発計画で打ち出された「均衡ある国土の発展」という理念に象徴されるように、様々な政策分野において中央集権型の計画策定に基づく経済発展に向けた産業政策が行われたが、その一方では地方行政（その財源確保）の必要性を強調するためにも地域の側は固有の歴史・風土・文化・民俗性といった資産をそこに発見する必要がある。高度成長期以降の産業政策や国土開発をめぐる状況の変化を前提としつつ、地域における「文学」や「文学者」が地方の固有性を裏づけるとともに、地方振興にも役立っていたのである。地方の文学館設立の趣意書などを見ると、その地域の人びとが文学館設立に大きな期待を寄せ、協力的な姿勢で臨んでいたことがよくわかる。地方の側で期待されたのは、何よりもその地方が固有であることを「文学者」や「文学」作品の中に見出し、学問的に証明してもらうことであった。地方の文化資産としての「文学」作品ならびに「文学者」が再発見される社会的な背景（事情）がそこにはあったのである。このような複合的な要因により、「文学」や「文学者」はその意味を見出され、展示され、保護される資源となっていった。

14) 『小説家-現代の英雄』荒正人 光文社 1957年6月。

5 文学館の可能性

現在、国土交通省は「多様な旅行者ニーズに対して、一律の規格の旅行商品ではそれらのニーズを満たすことは難しい」とし「多品種・小ロット」といわれる、きめの細かい旅行商品の提供を求めている。また、地域に根ざし「自然」「歴史・伝統」「産業」「生活文化」等、これまで旅行の対象として認識されなかった地域資源が新たな観光、旅行の目的とされることを奨励している。地域の再生や活性化を生むために観光客をうまく取り込もうとしているところは多い。地域ならではの資源や文化を護り育てようとする取り組みや、観光により地域を活性化しようとする取り組みの中で、地域ぐるみで地域に密着した新しい旅行商品の創出が問われているとして、国はテーマ性をもったニューツーリズムを推進している¹⁵⁾。

そのような状況の中で「文化観光」として「日本の歴史、伝統といった文化的な要素に対する知的欲求を満たすことを目的とした」観光の創出が期待されている。川端康成による近代文学館設立の趣意と重なるかのような思想である。

観光資源ということに特化して「文学館」を考えるならば、2011年11月現在、既に11万人以上、2003年の開館以降100万人以上の入館者を数えている山口県長門市仙崎の金子みすゞ記念館（長門市）が成功例としてあげられるだろう。

東日本大震災後に脚光を浴びている童謡詩人・金子みすゞのふるさと、山口県長門市で、観光業を中心に雇用が広がっている。山口労働局が29日発表した10月の地域別有効求人倍率で、同市を含む地域が2カ月連続で1倍を超えた。九州・山口で今年1倍を超えたのは同地域だけ。同労働局は、観光客の増加が要因とみており、地域経済への「みすゞ効果」を裏付けた格好だ。同労働局によると、山口県の10月の有効求人倍率は0.75倍（季節調整値）。しかし、県内9地域のハローワーク別で、長門市と萩市などを管轄するハローワーク萩（萩地域）の有効求人倍率は9月に1.04倍で33カ月ぶりに1倍を超え、10月も1.03倍になった。九州・山口の労働局によると、全76地域（ハローワーク）中、今年に入り有効求人倍率が1倍を超えたのは萩地域だけ。山口労働局によると、萩地域のうち特に長門市の観光産業が好調である。

震災以降、客室清掃のためのパート職員を増やした同温泉の大林誠・白木屋グランドホテル支配人は「九州新幹線と金子みすゞ記念館をセットで楽しめるツアーが人気で、10年の豪雨災害で不通となったJR美祢線が9月に再開したことも大きい」とし、「人々に希望を与える金子みすゞの詩が観光客や長門市などに元気を与えている。長門の元気が、被災地に伝われば」と話した¹⁶⁾。

15) 国土交通省『観光立国推進基本計画』2008年。

16) 『毎日.jp』2011年11月29日。

もちろん震災後に観光客が東日本を避けて西日本に向かったこと、震災直後のACジャパンのCMに使用された「こだまでしょうか」の詩により人びとの金子みすゞへの関心が高まったことなども理由として考えられるが、それ以前より「わたしと小鳥とすずと」が国語の教科書に採られるなどして、その詩は広く知られ人びとに受け入れられていた。

金子みすゞは1930年に亡くなってから約50年経って再評価された詩人である。きっかけは3冊のノートに書きつけられた詩が発見・紹介されたことによる。宮沢賢治の死後「雨ニモマケズ」が書かれた手帳が発見・紹介され、記念館へという動きにつながっていったこととの類似性を見ることもできよう。金子みすゞは生誕100年を記念して生家跡に記念館が開館した。

自治体が主体の館である以上利益が市民に還元されることは喜ばしいことである。しかし金子みすゞは「数字」を上げる詩人だから発見されたわけではない。常にそこに立ち戻りながら、新時代の文学館の役割について改めて考えるべきであろう。

現在文学を取り巻く環境は文学館運動の時代とは大きく異なっている。しかし「文学」や「文学者」を通して何かを感じるということにおいて市場の大小は関係ない。「文学館」という〈場〉で文化や歴史に触れ、また「文学館」がそこにあることの意味について考え、何かを感じる機会になれば、それは結果的に人びとの資産となるであろう。そもそも市場原理では推し量れないものが「文学」の本質なのではないだろうか。